

## 事業報告書

1 事業名	COVID-19第2波においても学びを止めない教育チャレンジ事業
2 事業実施期間	2020年 7月 10日 ～ 2021年 1月 31日
3 事業目的	<p>①事業計画に至る背景（コロナ禍における現状と課題）</p> <p>【背景】 COVID-19下、全国の学校が閉鎖となった。県内では私立学校やインターナショナルスクールに限定して、オンラインによる学習継続が速やかに展開された。一方で、公立学校では、課題プリント配布と電話による状況確認という対応がなされた。感染拡大防止の観点から、家庭訪問でさえも実施できない状況であったため、学校にわずか2回線しかない電話を使って数百名の児童生徒に連絡をする取り組みや、課題プリントを封書で郵送するという、想像を絶する手間と作業を費やす状況であった。</p> <p>時間と手間をかけて児童生徒のために現場の教師はできる限りの取り組みを行ったが、保護者からは「なぜオンラインでの学習指導ができないのか」などの指摘もあった。特に学校施設を用いずに学習指導を展開する想定をしていなかった今回は、社会的に見ても「仕方ない」という価値共有がされている。</p> <p>前例のない事象が起きている緊急事態において、学校教員たちは子どもたちのために、オンライン教育の実践という前例のないチャレンジに立ち向かおうとしている。そのチャレンジに対して敬意を表するとともに、実現に向けて最大限の支援をすべく、Google社ならびに県内民間企業との連携を生かして低予算での機材貸与を活用し、那覇市が準備中のGIGAスクール事業で児童生徒にコンピュータが1人1台が整備されるまでに教員のICT指導実践力養成と地域への横展開によるICT活用の普及促進に貢献する。</p> <p>【課題】</p> <p>(1) 教育格差の拡大 特に公立学校におけるコロナ休校期間における子どもたちの学習権の保障が厳しい状況となっている。</p> <p>(2) 地域連携による教員研修の充実 授業以外の業務が多く、十分な時間が取れない。学校の中に知見を有する人材確保が難しいため、地域や企業による支援体制確立と連携による研修価値向上は至上命題となっている。</p> <p>②事業を行う必要性（ニーズ）</p> <p>今コロナ第2波が起こる可能性が示唆されている状況で、学</p>

	<p>校側としても何も準備せずにはいられない社会的立場にある。しかし学校は技術的な知見やノウハウを有していない。外部からの支援によって短期に環境構築を行い、教師への研修と児童生徒がテクノロジーに触れることで、早期に使いこなせる状況を確認し、コロナ第2波に備えるだけでなく、実践校のノウハウを他校へ横展開させ、今後の地域全体のICT教育の充実を実現する。</p> <p>③市民や地域の公益性（社会貢献度）</p> <p>〈子どもたちの不安の最小化〉  COVID-19の状況で社会活動の制限が続くなか、子どもでさえも不安と向き合うことを強いられている状況となっている。特に共働き家庭の小さな子どもの中には、行き場を失い寂しさと不安に孤立化している状況もある。  本事業により、デジタル機器とセキュリティの確保されたクラウドツールを学校や家族が活用できる体制を整える事によって、子供たちの学習の状況や表現・発表などの活動を保護者が共有可能にし、社会全体の安心を広げることには貢献したい。</p> <p>〈多くの学校への普及、横展開〉  教員の意欲は高く、成果発表会や指導法の発信なども視野に入れている。そういった発信によって保護者や地域、市内の他校への波及効果やコロナへの準備拡充だけでなく日常の学習充実に大きく作用すると期待している。</p>
<p>4 事業内容</p>	<p>①具体的な実施内容</p> <p>(1) 教育用ドメイン取得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導に用いるアカウントのホスティング</li> <li>・教育用ドメイン認証手続き</li> </ul> <p>(2) Google for Education申請</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Googleが提供するクラウドサービス無償利用の申請</li> <li>・学習用端末との紐付け設定</li> </ul> <p>(3) 教育用クラウドアカウントの発行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育用ドメインによる教員用、児童生徒用メールアドレス</li> <li>・ディレクトリ構造の設定</li> <li>・セキュリティ設定（Google Safe Searchを活用）</li> </ul> <p>(4) 教材準備及び研修内容の精選</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Google Classroom設定及び児童生徒の登録</li> <li>・学習題材、研修題材の登録</li> <li>・学習資料、研修資料のリンク配置</li> </ul> <p>(5) 児童用学習端末の手配及びセキュリティ設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Chrome Education Upgrade管理コンソールプロビジョニ</li> </ul>

	<p>ング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各端末へのエンロール設定作業</li> <li>・学校ディレクトリごとの配置</li> </ul> <p>(6) 教員研修及び研修の一環としての出前授業の実施</p> <p>②事業の周知方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直接訪問しての説明</li> <li>・マスメディア協力</li> <li>・学校公式Webサイトへの掲載</li> <li>・保護者向けお便りへの掲載</li> <li>・出前授業の際のWebストリーミングによる保護者参観映像提供</li> </ul> <p>③コロナウイルス感染症対策（感染拡大防止に対する対応）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者、講座実施者の双方にマスク着用と消毒徹底</li> <li>・関係者感の打ち合わせは対面の必要性が無い限りリモート会議を基本とする。</li> <li>・研修実施は少人数であってもピンマイクとワイヤレス拡声器を活用し、発声による飛沫拡散防止に努める。</li> </ul>
<p>5 事業効果・今後の展開</p>	<p>①期待される効果</p> <p>○学校が休校の際の教育活動の停滞回避が可能となった。 〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と児童によるリモート授業の実施</li> <li>・児童による各家庭からの授業への参加</li> <li>・リモート環境における児童どうしの共同学習</li> </ul> <p>○平時でも教育活動において以下の活動が可能になっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童同士が帰宅後、Google for Educationの機能を活用して相互の話し合い活動を行い、話し合い活動や係活動の準備をおこなっている。</li> <li>・児童が主体的に調査したことを家庭でスライドにまとめて、授業において発表する、という学習サイクルが実現した。</li> </ul> <p>○教職員同士の意識の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の取り組みに参加した教員の先進事例を実際に見ることによって、苦手意識を抱えていた周囲の同僚たちから校内での勉強会実施の要望があがった。本事業に参加した担当教師が研修講師となって、学校内での自主勉強会が不定期に開かれるようになった。</li> <li>・本事業に参加した担当教師は、県内で開かれたICT教育関連のシンポジウムやフォーラムに積極的に登壇者として参加した。他の自治体の学校教職員への好影響が起きて異なる地域間の事例交換により、相互の教育の質向上に貢献する教員が出来てきた。</li> </ul>

	<p>②次年度以降の展開について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教職員によるICT活用教育実践事例の発表会の不定期開催</li> <li>・児童生徒によるICT活用事例の発表会の不定期開催</li> <li>・学校教職員向けICT活用勉強会の開催について準備を進めています。</li> </ul>																																
<p>6 その他反省点など</p>	<p>○学校スケジュールの調整</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍における休校措置の期間で失った授業のために、学校では土曜日も返上して授業を行っていた。そのため本事業のための教員研修の時間確保のための調整は困難を極めた。本事業の当初計画では教員研修の実施回数を明記したため、回数を消化することに注力せざるを得なかった。しかし事業を進めていく中で学校の先生方とやり取りから明確になったことは、スキルアップのための研修は重要ではあるが、それだけでなく指導案や展開事例の提示など具体的な学習指導イメージの形成が現場からもとめられていることであった。実施計画の変更を実施期間途中で申請して承認を得ることで、先生方のニーズに対応すべきだった。</li> </ul>																																
<p>7 スケジュール (なるべく詳細に記入してください。)</p>	<p>実施スケジュール（研修及び出前授業）</p> <table border="1" data-bbox="544 1106 1461 1984"> <tr> <td>7/16</td> <td>城北中学校</td> <td>教職員研修</td> <td>Google for Education 活用方法</td> </tr> <tr> <td>7/28</td> <td>城北中学校</td> <td>教職員研修</td> <td>Google for Education 活用方法</td> </tr> <tr> <td>7/29</td> <td>泊小学校</td> <td>教職員研修</td> <td>Google for Education 活用方法</td> </tr> <tr> <td>8/14</td> <td>城北中学校</td> <td>教職員研修</td> <td>Google for Education 活用方法</td> </tr> <tr> <td>8/20</td> <td>泊小学校</td> <td>教職員研修</td> <td>Google for Education 活用方法</td> </tr> <tr> <td>9/4</td> <td>泊小学校</td> <td>PTA研修</td> <td>Google for Education 活用方法</td> </tr> <tr> <td>9/12</td> <td>泊小学校</td> <td>3年生 出前授業</td> <td>Google for Education を活用した調べ学習と自動 によるプレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>9/12</td> <td>泊小学校</td> <td>5年生 出前授業</td> <td>Google for Education を活用した調べ学習と自動</td> </tr> </table>	7/16	城北中学校	教職員研修	Google for Education 活用方法	7/28	城北中学校	教職員研修	Google for Education 活用方法	7/29	泊小学校	教職員研修	Google for Education 活用方法	8/14	城北中学校	教職員研修	Google for Education 活用方法	8/20	泊小学校	教職員研修	Google for Education 活用方法	9/4	泊小学校	PTA研修	Google for Education 活用方法	9/12	泊小学校	3年生 出前授業	Google for Education を活用した調べ学習と自動 によるプレゼンテーション	9/12	泊小学校	5年生 出前授業	Google for Education を活用した調べ学習と自動
7/16	城北中学校	教職員研修	Google for Education 活用方法																														
7/28	城北中学校	教職員研修	Google for Education 活用方法																														
7/29	泊小学校	教職員研修	Google for Education 活用方法																														
8/14	城北中学校	教職員研修	Google for Education 活用方法																														
8/20	泊小学校	教職員研修	Google for Education 活用方法																														
9/4	泊小学校	PTA研修	Google for Education 活用方法																														
9/12	泊小学校	3年生 出前授業	Google for Education を活用した調べ学習と自動 によるプレゼンテーション																														
9/12	泊小学校	5年生 出前授業	Google for Education を活用した調べ学習と自動																														

				によるプレゼンテーション
11/30	城北中学校	中核研修	Google for Education を活用した一括管理型アンケート収集	
12/18	城北中学校	管理職研修	Google for Education を活用した一括管理型アンケート収集	
12/23	石嶺中学校	教職員研修	Google for Education 活用方法	

8 事業実施に関する支援団体の有無（該当する箇所に☑等を記入してください。）

☑行政との協働      ☑企画に協力      □資金提供      ☑告知などの協力  
□無し

協働の内容

那覇市教育研究所

- ・打ち合わせ、研修、出前授業への参加、見学

Google for Education

- ・関係者への講話
- ・G suite for EducationとChromebookの無償提供

DELL Technologies

- ・Chromebookの無償提供

Synnexジャパン

- ・企画運営への助言

